

令和3年度第3回仙台市GIGAスクール推進協議会 議事録(要旨)

1. 日時

令和4年2月4日（金）10:00～12:00

2. 場所

仙台市役所上杉分庁舎12階 仙台市教育局第1会議室（オンライン会議）

3. 出席者

（委員）

堀田 龍也 会長，稲垣 忠 委員（会長代理者），安藤 明伸 委員，大江田 真理 委員，工藤 哲 委員，佐藤 真奈 委員，鈴木 一生 委員

（9名中7名出席により定足数（半数以上）充足）

（事務局）

金子副教育長，鎌田教育局次長，郷家学校教育部長，寺田学校教育部参事，本郷教育指導課長，勢藤生涯学習課主幹，大友教育指導課情報化推進係長，太宰教育指導課主任指導主事，安部教育指導課主任指導主事，坂本教育指導課指導主事，石井教育指導課指導主事，新妻教育指導課指導主事，横山教育指導課主査

4. 欠席者

木村 ひろみ 委員，田中 充 委員（2名）

5. 傍聴者・報道機関

3名

6. 内容

○報告事項

(1)教育の情報化全般に関する取組状況について

(2)部会における取組状況について

・教育の情報化推進部会の取組について

・家庭の情報モラル推進部会の取組について

○協議事項

(1)仙台市学校教育の情報化推進方針（令和4～6年度）（最終案）について

○その他・意見交換

7. 議事要旨

（特記事項）

堀田会長：緊急を要するものかと思い最初に伺うが，本日朝，Chromebookのメーカーより自主回収のプレスリリースがあった。これは仙台市で導入したものと同型か。また，まだ対応は決まっていないかもしれないが，仙台市での状況はどうか。

事務局（大友情報化推進係長（以下大友係長））：今朝のプレスリリースを受けて確認中であるが、本市で導入している端末が回収の対象となった。端末にねじの混入があり、それがバッテリーに損傷を加えた場合危険という事例が全国で1件あり、それを受けて、安全確認のため仙台市へ納入された端末も全台回収点検したいとメーカーであるNECより話があったところ。詳細は今後メーカーから報告いただくところだが、強い衝撃を与えなければ使用に差し支えないとプレスリリースにあり、当面、安全に留意しながら使用は中止せず、落として衝撃を与えた等の場合に中止とし、全台の回収等日程は今後調整する方向で検討している。

堀田会長：全国的にはすっかり学習で使っているのだから、ここで回収となると支障が大きいかと思ってお尋ねしたが、強い衝撃を与えなければ引き続き使えるということであれば安心した。

○報告事項

(1)教育の情報化全般に関する取組状況について

→事務局より、資料1に基づいて報告した。

(補足事項)

事務局（大友係長）：第1回推進協議会の時点では予定になかったが、日常的な端末の持帰りや、文部科学省MEXCBTへの希望校の参加等、状況を見て新たに実施したものもある。

事務局（大友係長）：これまでの推進協議会でいただいた御意見への対応状況等も合わせて御説明する。個別の学校支援の状況をもっと知りたいという御意見をいただいていたが、学校訪問は129校に往訪し、インターネット環境の確認等実施した。GIGAスクール連絡協議会・セキュリティ研修を悉皆で実施した。また、オンライン学習の具体の構成等を学校に示してほしいという意見もあったため、学校へ通知を出しており、各校でGoogle Meet等の練習に取り組んでいるところ。併せて、持ち帰った端末の家庭での使い方、端末の夜間における利用停止設定を行っていること、その他広報・周知について、サポートサイトにも掲載している。

(質疑等)

堀田会長：これまでの委員の意見を受けて対応したところについては、口頭で御説明いただいたところであるが、議事録でわかるように残していただきたい。外部からの意見に対してこう対応している、という市の姿勢を表明する意味でも大事。また、第1回の会議では実施予定として提示してなかったが追加で対応したというものが数点報告されたが、年度内にも関わらず追加で対応したのものがあるというのはとても重要なことである。動きが速い環境であるので、そのような積極的対応が求められる。令和4年

度も、デジタル庁の動き等、色々生じるかもしれないので、すぐ動けるように予算等にはバッファを持たせるようにしてほしい。

稲垣委員：来年度に向けての思いは分かったが、例えば、家庭への持ち帰りに関して今どんな状況かもっと知りたい。また、ネットワークはどのような障害があってどう対応したか。

事務局（大友係長）：まず、端末持ち帰りについては、小学校では、必要に応じて随時行っている71%、毎週末行っている6%、練習実施以降行っていない21%であった。中学校では、必要に応じて随時行っている55%、毎日行っている1%、練習実施以降行っていない44%であった。また、ネットワークについては、令和3年8月にセンター集約型で20Gbpsに回線を増強するまで、学校によってはネットワークが遅い状況もあった。増強後も、各学校で通信に問題がある場合は学校訪問等により設定等を確認し対応しており、今のところ、通信できないような大きなトラブルの連絡は入ってきていない。

堀田会長：委員から振らなくとも報告いただけるとよかった。利活用率は急に100%にはならない。オミクロン株の感染拡大を受けてから始めている自治体は多いが、それでは間に合わない。仙台市でも急に全部とはいかないので、プロセスも含めて報告いただき、確実に進めてほしい。

安藤委員：MEXCBTについては、令和3年度の希望校は何校か？

事務局（大友係長）：小中合わせて31校である。

安藤委員：MEXCBTと一緒に使う教育eポータルはどの製品か。

事務局（大友係長）：まなびポケット（NTTコミュニケーション株式会社製）で進めている。

安藤委員：どのように決まったか。

事務局（大友係長）：セキュリティと使い勝手を勘案したもの。

安藤委員：そうした情報も出していただけるとよい。

安藤委員：資料1の書き方だと、教育用クラウドの利用推進は学習者用デジタル教科書のためだけに実施するように読めてしまうが、そうではないはず。

事務局（大友係長）：そのとおり。

安藤委員：逆に、クラウドの学習への利活用の観点では、1日1回という目標は低すぎるように見えるので、書き方を工夫してほしい。

堀田会長：CBTについては、令和7年度から文科省による全国学力・学習状況調査が順次CBTで行われる見通し。あとたったの3年である。学習者用デジタル教科書についても、いずれ全部の教科書がデジタルになる方向なので、デジタルならではの利活用以外に、紙の教科書でできていることをデジタルでも問題なく使えるようになる必要がある。今までの授業の進め

方の延長線上でデジタルを考えるのではなく、まったく新しいものになると考える必要がある。キーワードは個別最適な学び。個々の児童生徒に学力をどう保障するか。学習教材としてデジタルドリルが重要になってくる。

(2)部会における取組状況について

- ・教育の情報化推進部会の取組について
→事務局より資料2に基づいて報告した。
- ・家庭の情報モラル推進部会の取組について
→事務局より資料3-1,3-2及び3-3に基づいて報告した。

(質疑等)

堀田会長：2つの部会の取組は大変素晴らしい。学校現場で考えて動いているのがよい。

安藤委員：取組はよいと思う。説明の中で、Google Workspaceのライセンスの関係でMeetの参加人数上限があるような話があったが、Teaching & Learning Upgrade等、有料ライセンスの導入も検討いただけるとよい。そのような観点もソフトウェアの整備に含まれる。

安藤委員：リーフレットについては、今後モラルだけでなくセキュリティにも触れると時代に合うと思う。

稲垣委員：約3,700人も研修に参加したのはよい。来年度に向けて、やり方が見えてきたものと思う。今後は、やれている学校とそうでない学校の格差をどう縮めるかを意識してほしい。

佐藤委員：GIGAスクールを進める上で前向きになる取組とを感じる。

堀田会長：沢山の先生が研修に参加したということは、沢山の先生が使い方が分からなくて困っているということの裏返しでもある。知りたいのはまずツールの使い方、次にモラルを児童生徒にどう伝えるか。ツールとコンテンツをどう使うとよい授業になるか等、予算も含め進めて欲しい。

○協議事項

- (1)仙台市学校教育の情報化推進方針（令和4～6年度）（最終案）について
→事務局より資料4-1、4-2及び4-3に基づいて説明した。

(補足事項)

堀田会長：最初に改めて確認するが、この方針は最終的に仙台市が定めるもので、それに対して委員は意見交換をするというもの。

(質疑等)

堀田会長：予算案の関係もあろうが、全体を通して直近のことしか書いてい

ないように見える。3年後の授業がどうなっているか、ビジョンをもっと知りたい。確実に実現できる予算の裏付けがないと書いても仕方ないという意味では仕方ないが、気になるところである。デジタル教材については、その多くが有償であるが、導入をどう考えているか。また、仙台市が考える学校教育と家庭教育の在り方との連動等が分かりにくいと思った。

鈴木委員：情報モラルのリーフレットを児童生徒・保護者に配付する際に、低学年には難しいという話があり、私が全クラス回って説明を行った。リーフレットについては、授業で使う際の指導案の例等もあるとよい。指針1の日常的な利活用については、目的と手段がシンプルに結びついていると学校でもやりやすい。

休校に伴い、持ち帰りを始めた。教材はドリルとしてnavima（凸版印刷株式会社製）を使用している。中学年以上はよく使っているようである。担任も個々の児童生徒の進捗を測りやすい。休校時のオンライン授業となるとまた色々考えなければならないことが多いと感じている。

堀田会長：学校現場の大変さがよく伝わってきた。推進方針との関係で言えば、個別最適な学び、休んだ子への学びの保障とも、デジタル教材が有効で、先生も状況を把握できるという、それこそ意義がある、というお話と、情報モラルについても、事例集等のようなものがあれば指導しやすく、家庭への啓発と連動できるというお話をいただいた。事例集については、他自治体の話を見るに、先生方が教材から自分達で作るのは難しいと考えている。教材群があって、それをどう使うかという事例であれば集まりやすい。これは予算措置の問題ではあるが、検討いただけるとよいと思う。

工藤委員：配備のおかげで先生・生徒ともスキルは確実に上がっている。意識改革も含めてステップアップしているところである。今年度は、9教科全てにおいて端末を活用した指導案を作成し授業を行うことにしている。学校行事でも活用している。次年度は全ての教員が少なくとも1事例以上の授業研究を実施することとしている。学習指導要領の学力に直結するようなデジタル教材の整備には予算と時間を要することから、現在本校では、ミライシード（株式会社ベネッセコーポレーション製）を試用している。また、教育eポータルのみなびポケットに無償で付属するeboard（NPO法人eboard製）を併用している。次年度に向けて、副教材にデジタル教材を入れていく必要性を感じた。持ち帰りについては、家庭でのルールがゆるくなりがちなので、家庭での取り扱いに関するリーフレット等があるとよいと感じた。

堀田会長：デジタル教材の必要性と、学校における情報モラル指導と家庭のルールの明確化についてお話をいただいた。モラル・ルールは学校・校種

によっても違うとは思いますが、いずれにしても教育委員会としてのビジョンが示された上で各学校が判断して定めるものかと思うのでよろしくお願いしたい。

堀田会長：ところで、予算案はあくまで案であるのか、このままいくのか。私は先ほどの予算案の説明を聞いて愕然としている。このままいくと、来年度もみんなでクラウドを使ってみた程度で持ち帰りもあまり進まず、なぜならば学力の定着が期待できないからであり、情報モラルも先生方のノウハウだけでやれということになると恐らく広がりも見せず、不安な要素が多くなって持ち帰らせないという方向に向かう、という最悪のシナリオを想像してしまう。ぜひ、我々の今日の意見も踏まえて、膨らませていただく方向になればよいと思う。

大江田委員：保護者目線では、この協議会が開かれるのは状況が分かってありがたい。自分の姉妹が東京にいるが、話を聞くと、自治体でばらつきがあると見えてくる。オンライン授業の実施についても、よそに比べて仙台はまだと感じる。教科や個々の先生によって利用もバラバラということも分かった。子供たちのためにどうあるかということも大事だが、その前にまず先生が使えるようになることを目指してほしい。こういうことのためにICTを使う、という目的を理解できるようにするとよい。

堀田会長：学校に御理解のある委員の方から、仙台市がここまでしか来ていないといった御意見をいただいたことは鮮烈な御発言と理解する。期待の裏返しでもあるが、来年度の予算がこのような感じだとちょっと、というのが私のイメージであって、その後の、3年後どうするかというビジョンが明瞭に示されることが大事。

安藤委員：方針策定に当たっては、現場の意見を吸い上げているものと信じているが。仙台市は、小中学校で同じプログラミング教材を導入しており、全国で注目されている。方針内で「全校」で実施とあるのは、「全小中学校」と明示してほしい。また、教育センターの教育の情報化研究会の取組は、各先生とても努力して好事例がたくさんできている。しかし、成果がわずかなページの報告書の作成と、Webページでの掲載のみにとどまっており、成果を全市に普及・展開しようとしていると思えない。特にプログラミングについては、先生たち個人で取り組むだけでなく、研究校のように組織的に取り組むなどしてさらなる普及啓発を考えていただきたい。

稲垣委員：方針がビジョンとして機能することが大事と思う。方針の中で4つの学びを打ち出すのであれば、例えば個別最適な学びは具体的にどういう姿を目指していて、そのためにどのような事業が行われ、それに予算を付ける、というロジックがあるとよい。その方が筋書きが見える。

堀田会長：この情報化推進方針は市教委が作るものであって我々は参考意見を申し上げる立場であるが、色々な立場の方々が集まってこういう意見が出たということはぜひ御了解いただいた上で次なる施策に反映させていただければと願う。コロナで今学校はとても大変で、今になってから持ち帰りを始めるのではやや手遅れという感もある。マスコミ等でも話題になっていたし、文部科学省も何回も調査を行ってきた。持って帰ってきたときに何をさせるのか、というデジタル教材問題や情報モラルのルール問題が先にあるわけで、この辺りを学校で地道にやっていることは今日の報告で分かったが、それとビジョンや予算との接続は教育委員会のリードだと思うのでよろしくお願ひしたい。

国の仕事を色々している関係で来年度はもう時間が取れないため、今日でこの会議体は失礼させていただくこととなるが、最後に、国はよく仙台市を見ている。東北の各自治体も仙台市を見ている。仙台市がどうするかの一挙手一投足は大きなことかと思う。一つの東北のシンボルであるので、ビジョンのある進め方でぜひ進めていただきたいし、子どもたちや保護者が安心するような説明を十分に教育委員会から発信してほしい。現場は頑張っているので、現場の頑張りが教育委員会ですまく吸収されて予算に繋がりが、ビジョンに繋がるような仕組みを明瞭に見せていただければと期待して最後の言葉とさせていただきます。

事務局（金子副教育長）：いくつかご質問のあった点を含めて担当レベルでお答えしづらいこともあるので、私からお答えする。まず、安藤委員よりお話のあった、ソフトウェアライセンスについては、新しいソフトウェアだけでなく、お話のあったようなGoogleライセンスも勿論含めて対応する。また、プログラミング教育の全校実施は全小中学校を対象としている。また、稲垣委員よりお話のあった、4つの学びから個々の施策への対応付けについては、この場で私から軽々には申し上げられないが、教育委員会内で学校現場の経験のある者、各学校の先生方とお話ししながら、オンライン学習・授業等も含めて具体的なものを作り上げていきたいと考える。今御回答として申し上げられるのは以上のようなところ。

事務局（金子副教育長）：最後に御挨拶として、委員の皆様には、御多用のところ1年間御協力をいただき御礼申し上げます。今年度は、1人1台端末を本格的使い始める初年度として、ネットワーク整備完了が8月となったため学校によっては手探りのところもあったが、委員の皆様からの御意見をいただきながら、年度当初に決めたものだけでなく、よいと思ひ付いたことはできる限りすぐやるよう努めた。来年度の予算案についても、議会に出して、まず我々としてはまずこの形で認められるよう全力で努力して参る。その中で、学習支援ソフト1億少々であるが盛り込むことができた。

デジタル教材についても本日色々お話をいただき、重要性は認識している。予算規模が大きいのでやり方を検討したい。ICT支援員については、全小中高校に週1回行くイメージで予算案を立てたものであり、毎週外部の人が来て教員に刺激を与えるという意味でも大きいと思っている。そういったところも導入口にしながら各学校で教育の質の向上に取り組みたい。今後とも、皆様からは会議の場に限らずそれぞれの御立場、御見識から御意見を賜ればと考えているので引き続きよろしくお願ひしたい。